第９５回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成２８年７月～　９月期

平成28年7月～9月期の景気認識は、英国のＥＵ離脱決定に伴う金融市場の混乱の鎮静化、熊本地震からの復興の進捗（自動車関連）、原油安等が後押ししたが、円高の進行、国内消費の低迷等がマイナス影響を与えた。

このような状況において、トラック運送業界の7月～9月期は、労働力の不足感が強まったことや実働率が改善したことなどにより、運賃水準が改善傾向となった。その結果、営業収入・営業利益及び経常利益が改善に転じた。

これらのことから、景況感の判断指標は▲30.1となり、前回（▲40.7）から10.6ポイント改善した。なお、来期の見通しとなる景況感の判断指標は、海外景気、円高、国内経済状況の不透明感を反映し、今回より4.2ポイント悪化し、▲34.3の見通しとなっている。

平成28年11月11日

公益社団法人　全日本トラック協会

１．今回（平成２８年7月～9月期）の状況

① 概況

平成28年7月～9月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は11.2％（前回10.0％）、「悪化」とした事業者は37.9％（前回45.4％）で、判断指標は▲30.1となり、前回（▲40.7）から10.6ポイントの改善となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が35.2％、「増加」とする事業者が21.6％で、判断指標は▲16.8となり、前回（▲30.9）から14.1ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が36.6％、「増加」とする事業者が24.2％で、判断指標は▲16.3％となり、前回（▲23.9）から7.6ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が32.7％、「増加」とする事業者が24.7％で、判断指標は▲11.9となり、前回（▲22.5）から10.6ポイント改善した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が30.0％、「増加」とする事業者が13.3％で、判断指標は▲23.3となり、前回（▲30.0）より6.7ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が20.0％、「増加」とする事業者が13.3％で、判断指標は▲10.0となり、前回（▲20.0）よりも10.0ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が16.6％、「増加」とする事業者が16.7％で、判断指標は▲3.3となり、前回（▲30.0）よりも26.7ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が40.0％、「増加」とする事業者が14.0％で、判断指標は▲26.0となり、前回（▲26.5）から0.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が36.0％、「増加」とする事業者が20.0％で、判断指標は▲14.0となり、前回（▲18.4）から4.4ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が38.0％、「増加」とする事業者が24.0％で、判断指標は▲10.0となり、前回（▲10.2）から0.2ポイント改善した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物▲4.1（前回▲7.0）と2.9ポイント改善、宅配貨物は6.7（前回0.0）と6.7ポイント改善、宅配以外の特積貨物は8.0（前回▲4.1）から12.1ポイント改善となっている。

⑤ 実働率等

実働率は▲16.0（前回▲26.5）と10.5ポイント改善、実車率は▲14.1（前回▲24.1）となり10.0ポイント改善となった。

雇用状況（労働力の過不足）は71.8（前回60.9）と10.9ポイント上昇し、不足感が強くなった。採用状況は▲11.5（前回▲8.0）で3.5ポイント減少し、所定外労働時間は▲11.7（前回▲16.2）と4.5ポイント増加している。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲10.8（前回▲12.8）で2.0ポイント増加となった。経常損益は▲13.3（前回▲16.1）となり、指標は2.8ポイント改善となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は▲22.6（前回▲21.8）と0.8ポイント悪化、中規模事業者は▲26.6（前回▲45.0）となり、18.4ポイント改善、小規模事業者は▲38.6（前回▲41.8）と3.2ポイント改善となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲25.4（前回▲29.4）と4.0ポイント改善、建設関連貨物は▲30.1（前回▲52.7）と22.6ポイント改善、機械関連貨物は▲24.7（前回▲43.4）と18.7ポイント改善しており、その他貨物は▲36.9（前回▲46.7）と9.8ポイント改善している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、東北、関東、北陸信越、中部、中国、九州は水準を上げているが、それ以外の地域は水準を下げている。

２．今後（平成２８年１０月～１２月期）の見通し

① 概況

平成28年10月～12月期の見通しについて、業界の景況感の判断指標は▲34.3で、今回から4.2ポイント下げる見込み。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量、営業収入はほぼ横ばい、営業利益はやや悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量はやや改善、営業収入は僅かに悪化、営業利益は悪化の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量は改善、営業収入、営業利益は悪化の見込みである。

④ 運賃・料金水準

一般貨物はほぼ横ばいの見込み、宅配貨物はやや低下、宅配以外の特積貨物は低下の見込みである。

⑤ 実働率等

実働率は僅かに改善、実車率はほぼ横ばいの見込みである。雇用状況（労働力の過不足）は指標の水準をやや上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況、所定外労働時間はほぼ横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は僅かに改善、経常損益は指標の水準を僅かに下げる見込みである。

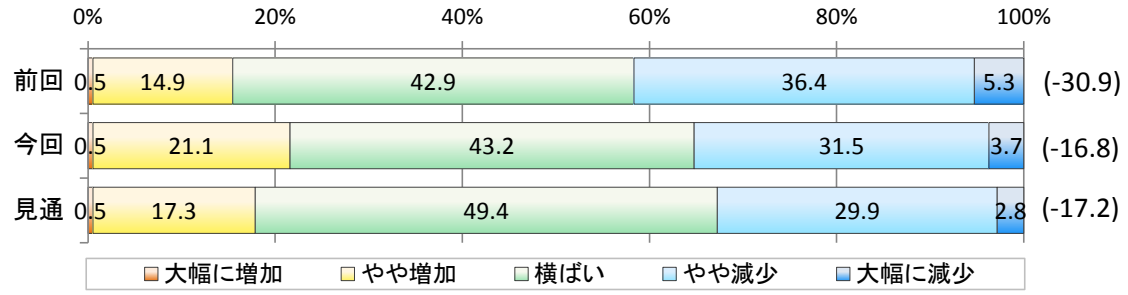
⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者、中規模事業者においてはやや悪化、小規模事業者においてはほぼ横ばいの見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物、機械関連貨物は水準をやや下げ、建設関連貨物、その他貨物はほぼ横ばいの見込みである。一般貨物における地域別では、東北がやや水準を上げる見込みである。

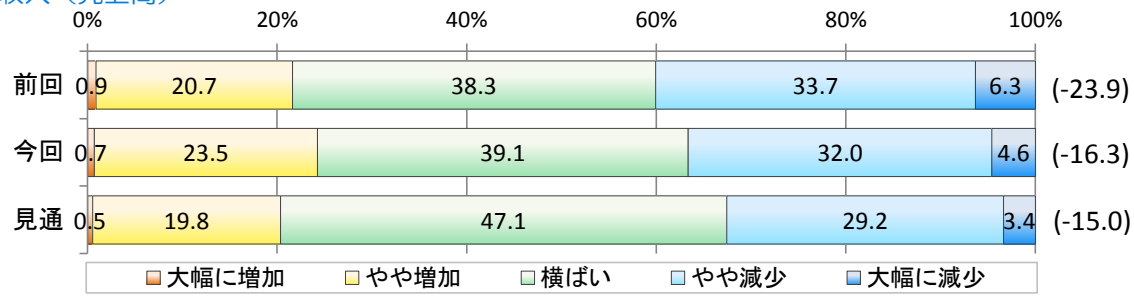
３．一般貨物の概況

■輸送数量



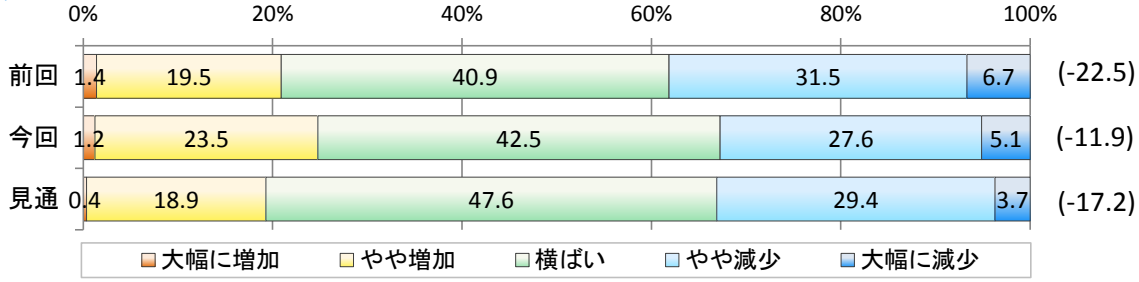
・前回より14.1ポイント改善した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■営業収入（売上高）



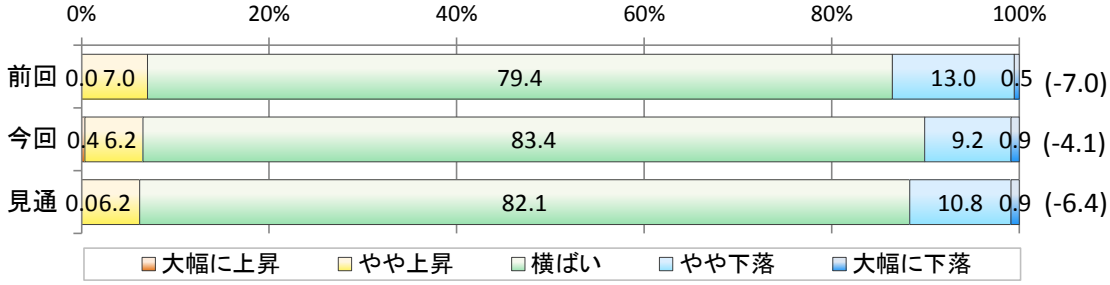
・前回より7.6ポイント改善した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■営業利益



・前回より10.6ポイント改善した。
・今後は水準をやや下げる見込み。

■運賃・料金の水準



・前回より2.9ポイント改善した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第95回調査は、平成28年10月1日に、モニターに対して調査開始。平成28年10月31日回収分までを集計。

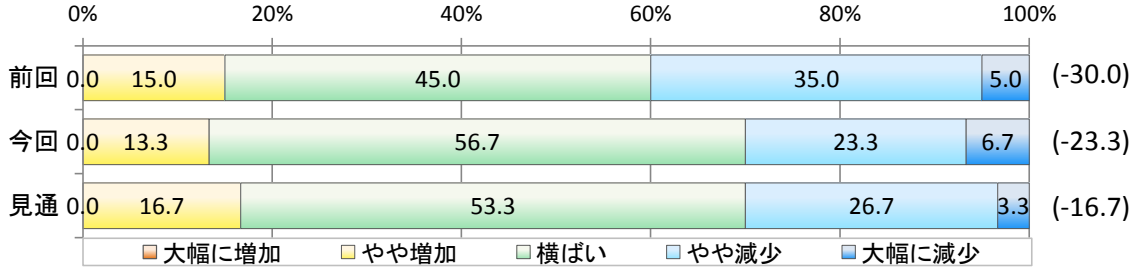
特積	一般	回答事業者全体
66	565	581

※一部回答事業者の重複あり

4．特積貨物の概況

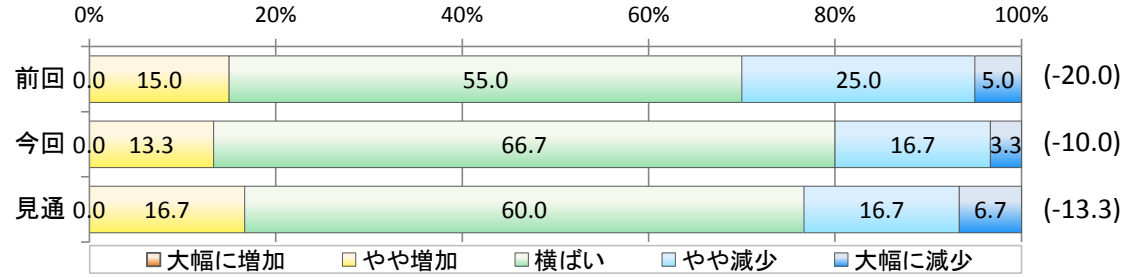
①　宅配貨物

■輸送数量



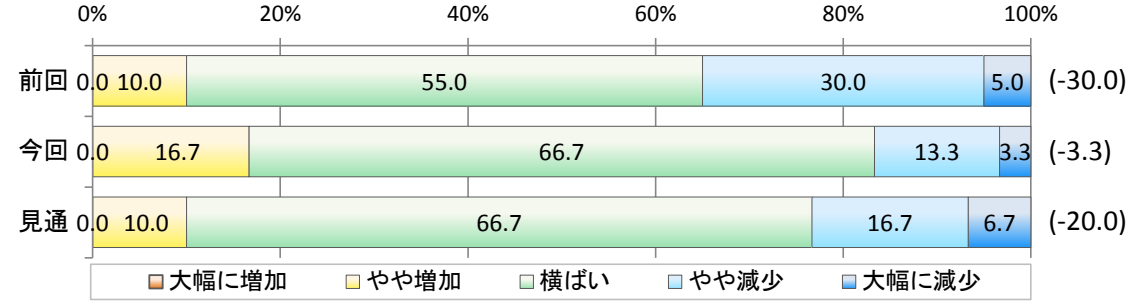
・前回より6.7ポイント改善した。
・今後はやや水準を上げる見込み。

■営業収入（売上高）



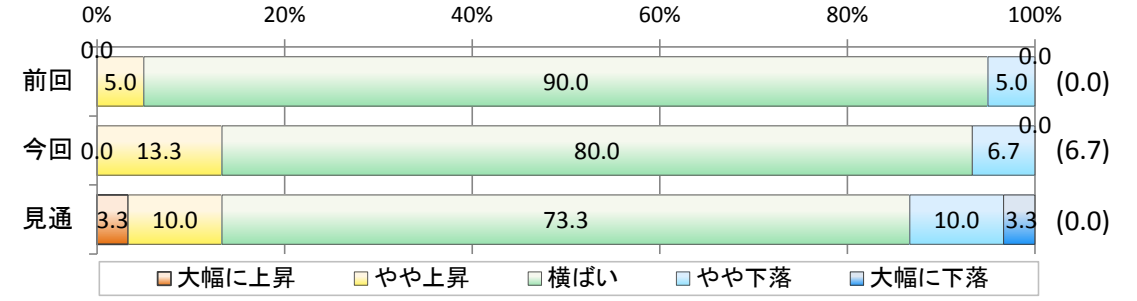
・前回より10.0ポイント改善した。
・今後は水準を僅かに下げる見込み。

■営業利益



・前回より26.7ポイント改善した。
・今後は水準を下げる見込み。

■運賃・料金の水準



・前回より6.7ポイント改善した。
・今後は水準をやや下げる見込み。

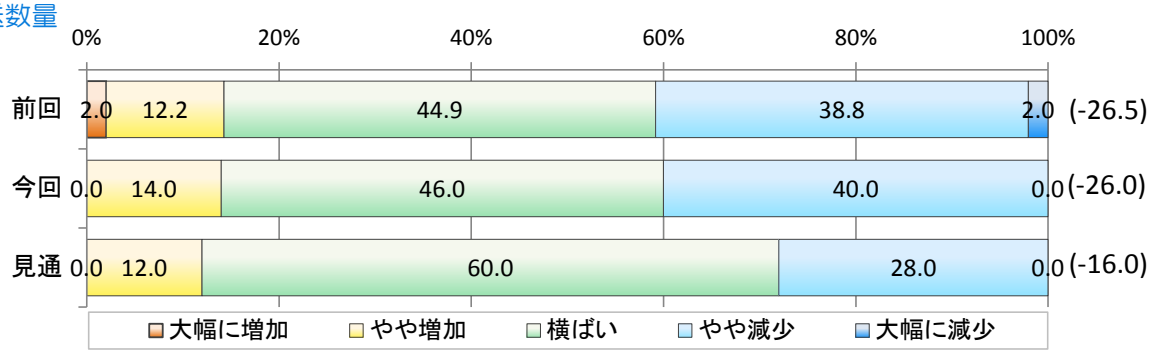
(注1)各グラフの上段は前回(H28.4月～6月期)の状況、中段は今回(H28.7月～9月期)の状況、下段は今後(H28.10月～12月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。
(注2)各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。
(注3)グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰−1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰～−2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数)＝a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標＝{(+2×a1)＋(+1×a2)＋(0×a3)＋(−1×a4)＋(−2×a5)}÷A×100

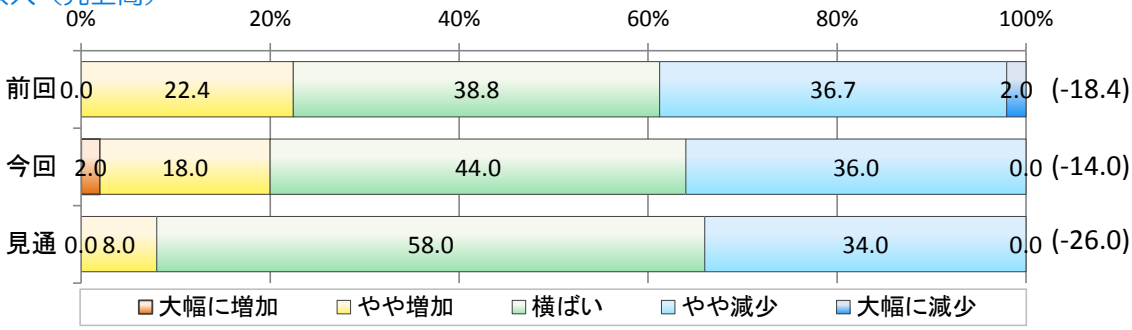
② 宅配以外の特積貨物

■輸送数量



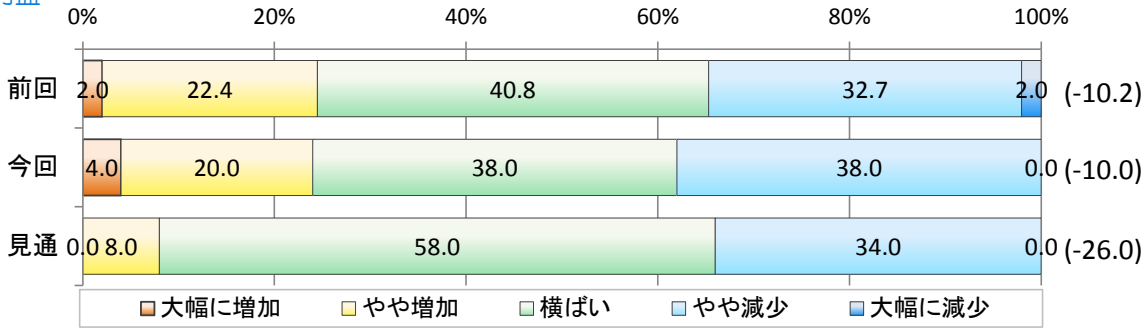
・前回より0.5ポイント改善した。
・今後は水準を上げる見込み。

■営業収入（売上高）



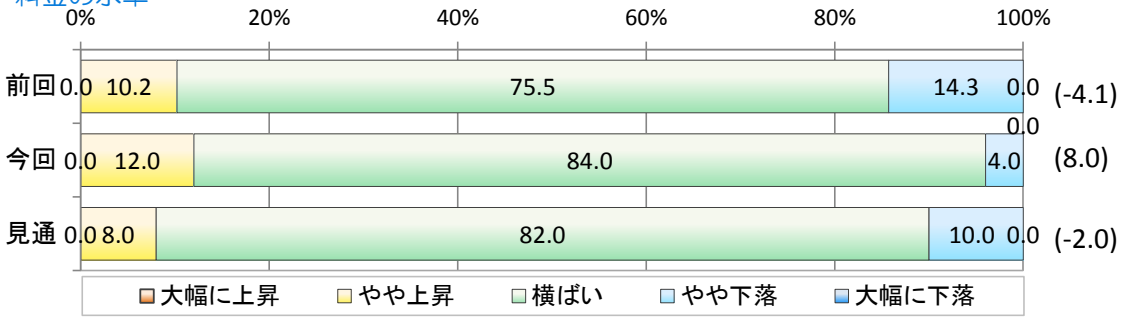
・前回より4.4ポイント改善した。
・今後は水準を下げる見込み。

■営業利益



・前回より0.2ポイント改善した。
・今後は水準を下げる見込み。

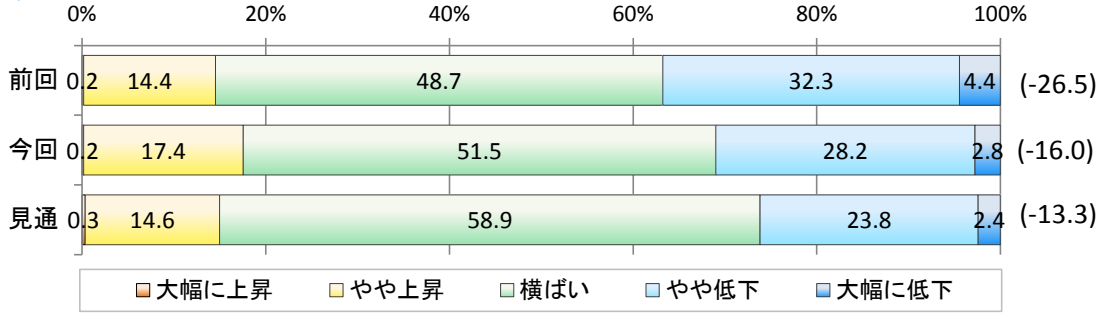
■運賃・料金の水準



・前回より12.1ポイント改善した。
・今後は水準を下げる見込み。

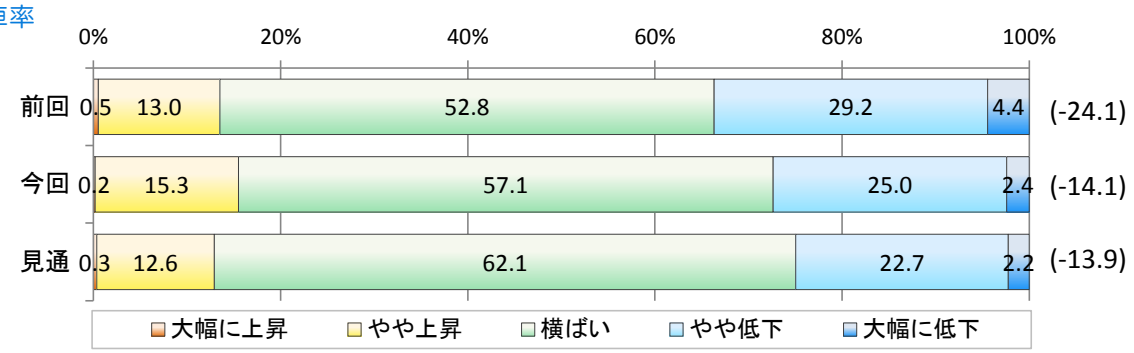
5．共通の概況

■実働率



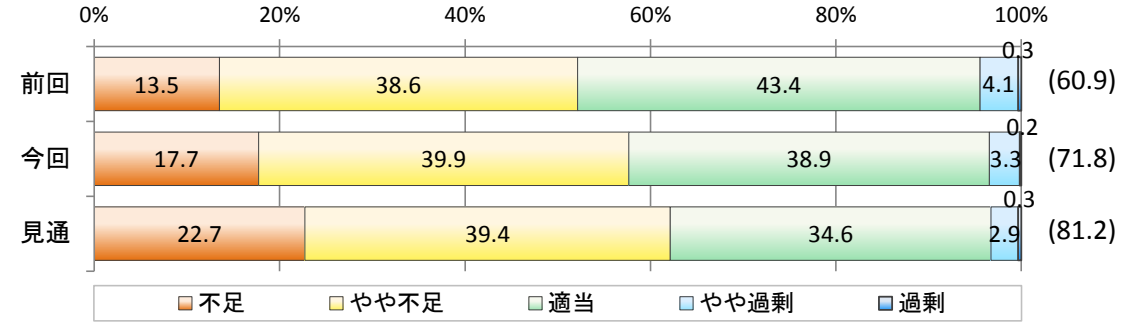
・前回より10.5ポイント改善した。
・今後は水準を僅かに上げる見込み。

■実車率



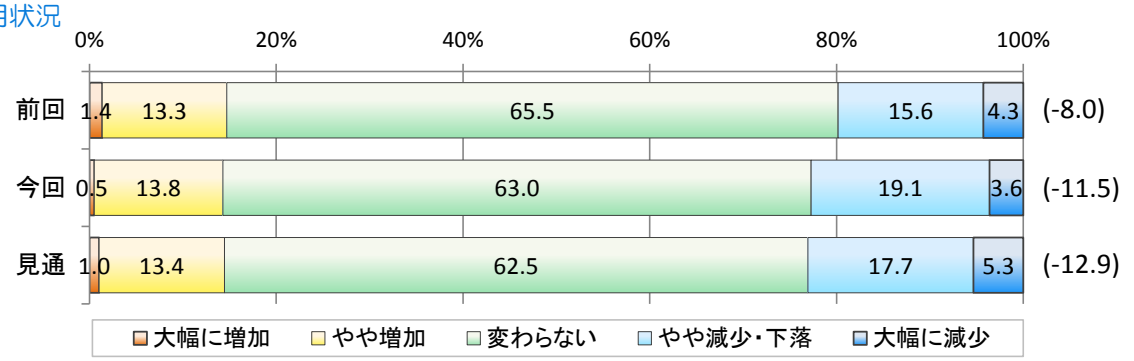
・前回より10.0ポイント改善した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■雇用状況（労働力の過不足）（注4）



・前回より10.9ポイント上昇した（不足感が強くなった）。
・今後はやや水準を上げる見込み。

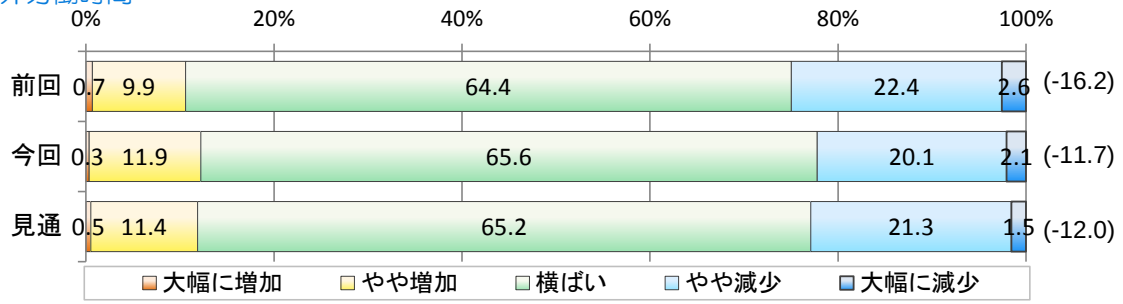
■採用状況



・前回より3.5ポイント減少した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

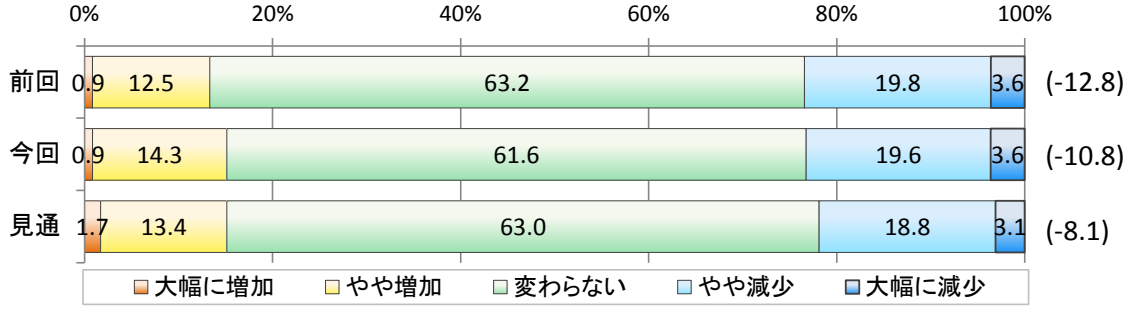
（注4）雇用状況については、上段は前回（H28.4月～6月期）の状況、中段は今回（H28.7月～9月期）の状況、下段は今後（H28.10月～12月期）の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

■所定外労働時間



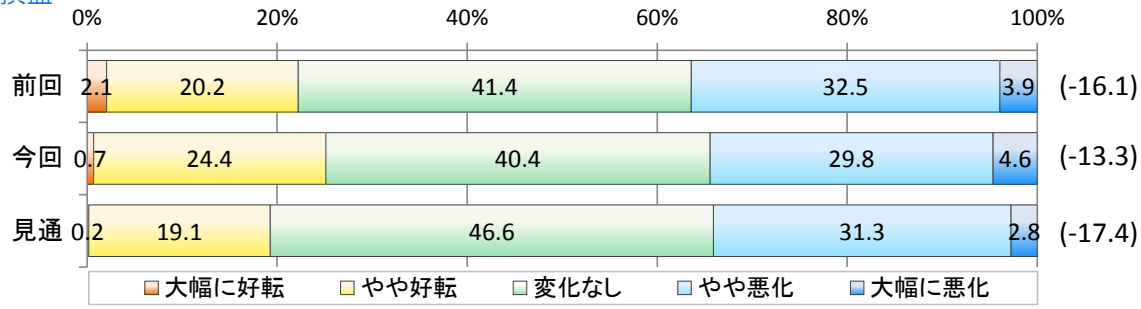
・前回より4.5ポイント増加した。
・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



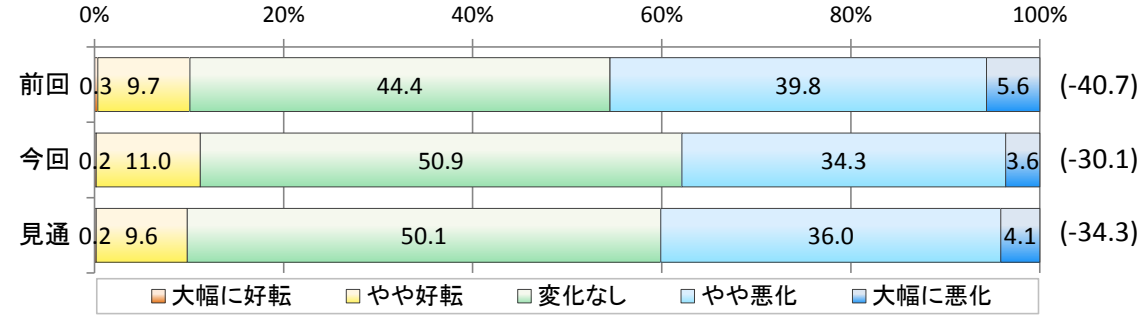
・前回より2.0ポイント増加した。
・今後は水準を僅かに上げる見込み。

■経常損益



・前回より2.8ポイント改善した。
・今後は水準を僅かに下げる見込み。

■業界の景況感



・前回より10.6ポイント改善した。
・今後は水準を僅かに下げる見込み。

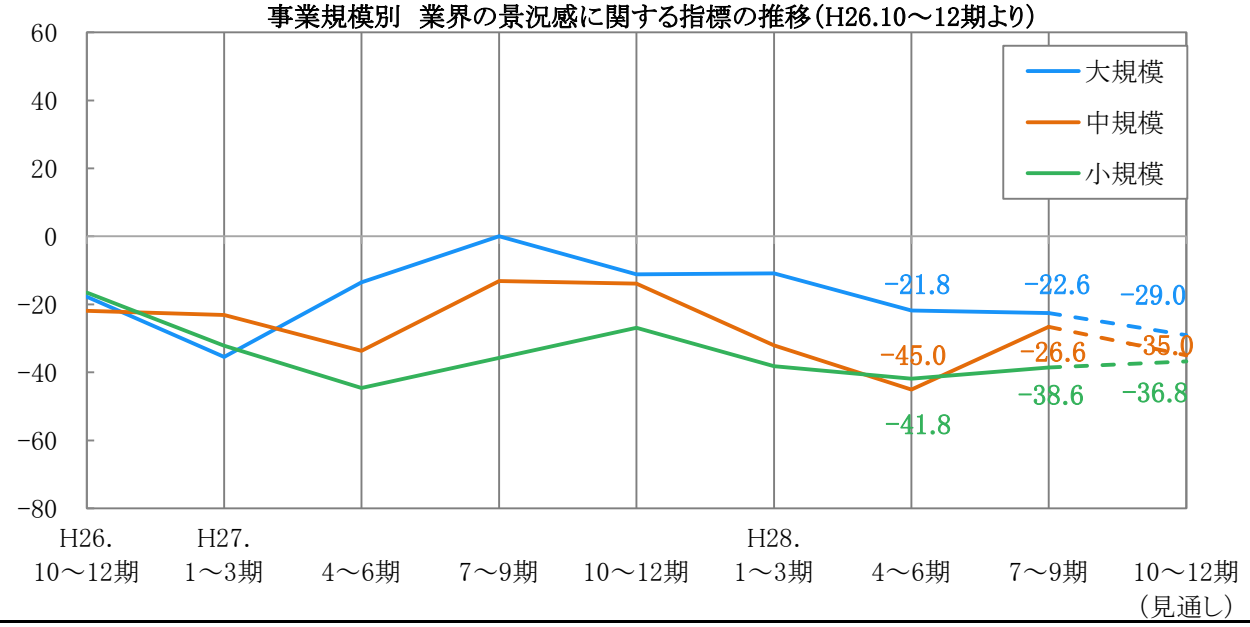
6．事業者特性別の特徴

① 規模 (注5)

・事業規模別の景況感は前回と比べ、大規模事業者はほぼ横ばい、中規模事業者は改善、小規模事業者は僅かに改善している。

・今後は大規模事業者、中規模事業者はやや悪化、小規模事業者においてはほぼ横ばいの見込みである。

事業規模別　業界の景況感に関する指標の推移（H26.10～12期より）



② 品目 (注6)

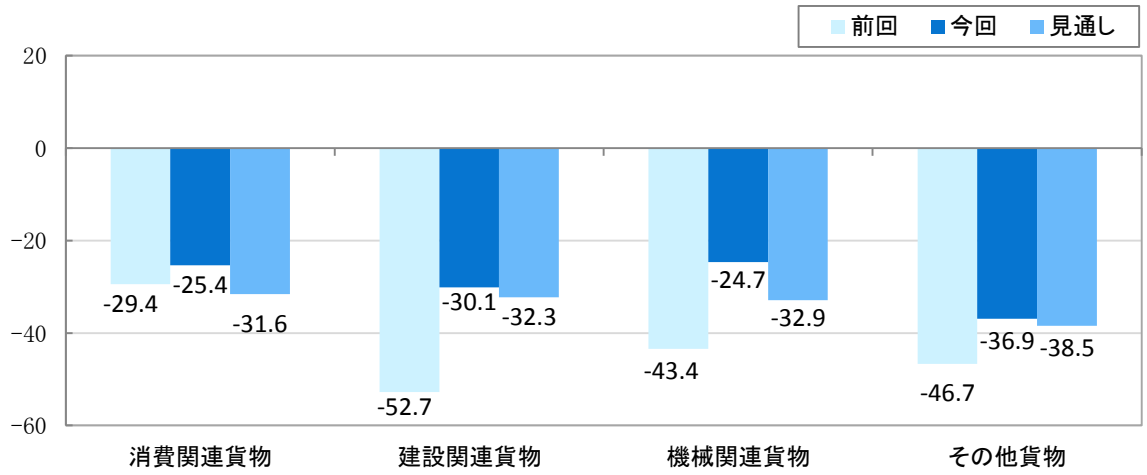
・「消費関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感は水準を僅かに上げており、今後はやや下がる見込みである。

・「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後はほぼ横ばいの見込みである。

・「機械関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後はやや下がる見込みである。

・「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後は横ばいの見込みである。

品目別　業界の景況感に関する指標（一般貨物）



（注5）規模別分類

大規模事業者：101両以上　　中規模事業者：21両以上100両以下　　小規模事業者：20両以下

（注6）品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

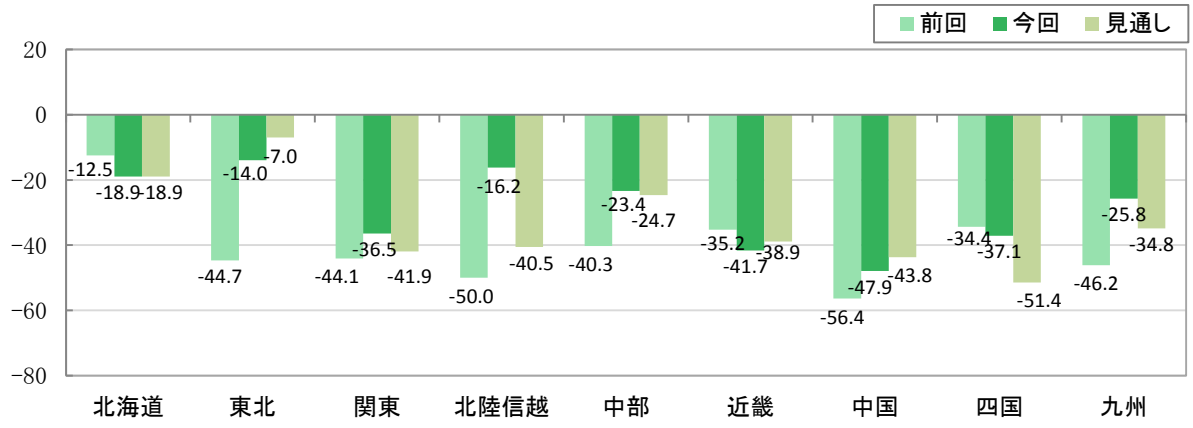
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域（注7）

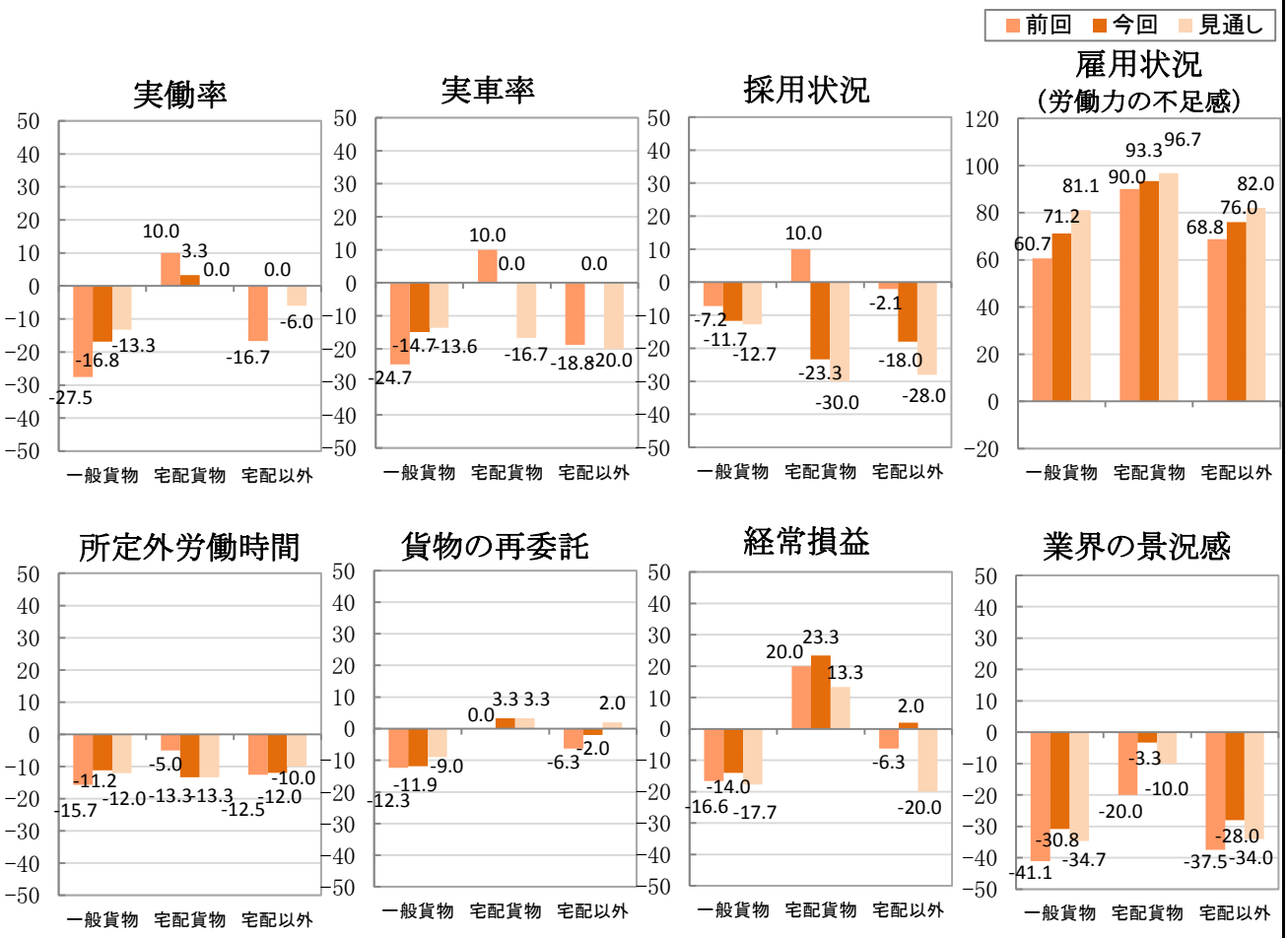
・一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、東北、関東、北陸信越、中部、中国、九州においては水準を上げている。他方、それ以外の地域においては水準を下げている。
・今後は、水準を上げると回答している地域は東北、近畿、中国である。

地域別　業界の景況感に関する指標（一般貨物）



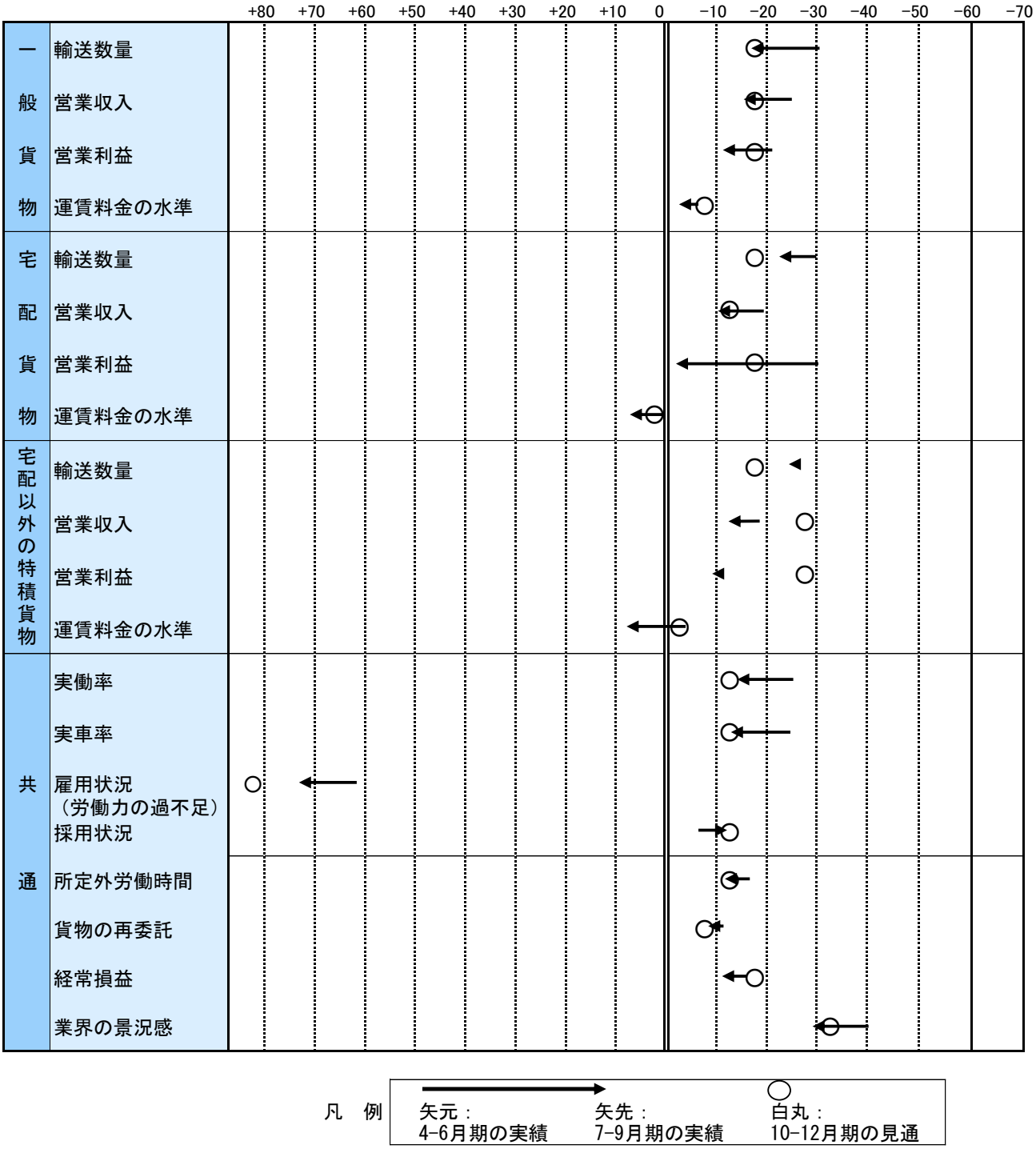
④ 事業形態別（注8）

・事業形態別の景況感は、「一般貨物」「宅配貨物」「宅配以外」すべてにおいて水準を上げている。またこの他の項目では、実働率、実車率においては、「一般貨物」「宅配以外」で水準を上げている。採用状況は「一般貨物」「宅配貨物」「宅配以外」すべてにおいて水準が低下している。



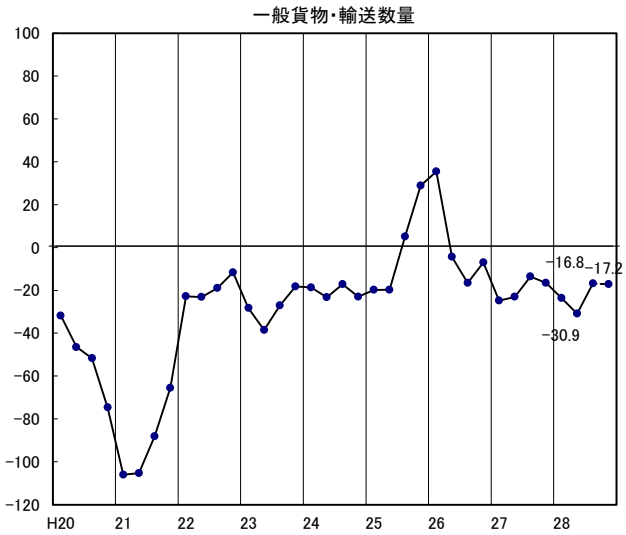
（注7）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。
（注8）事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

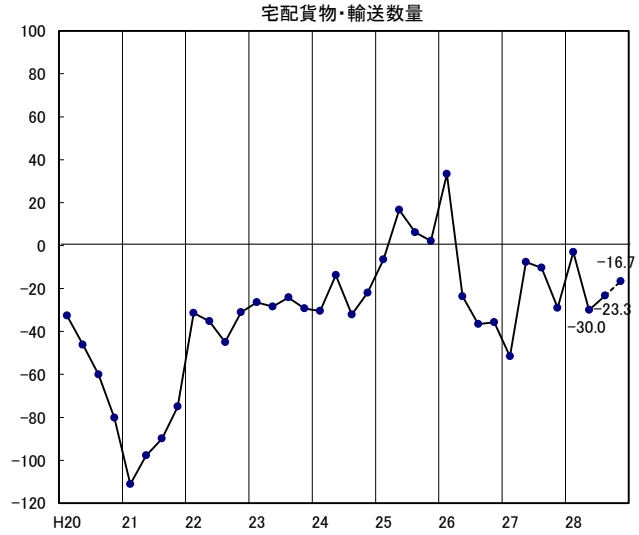
７．業況判断指標の前回調査（平成２８年４月～６月期）からの変化

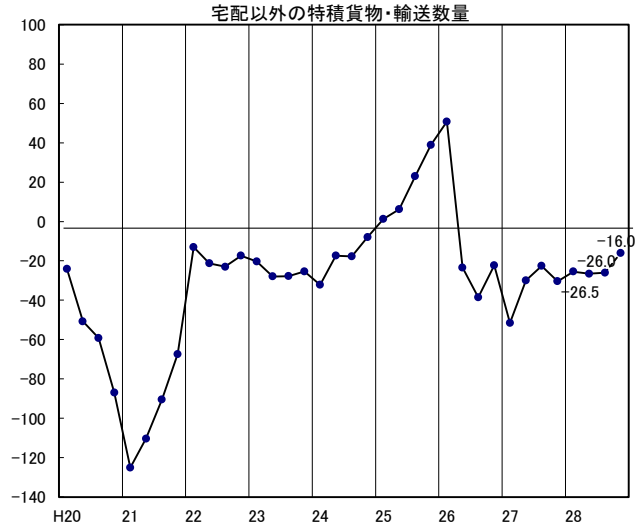


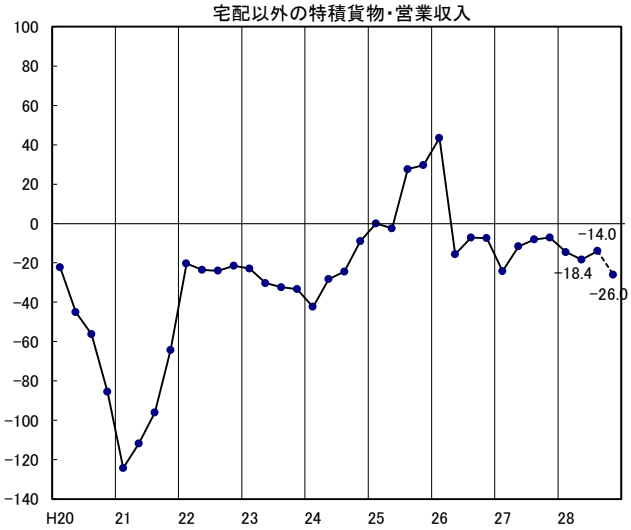
８．業況判断指標の推移

平成20年～平成28年第４四半期見通し



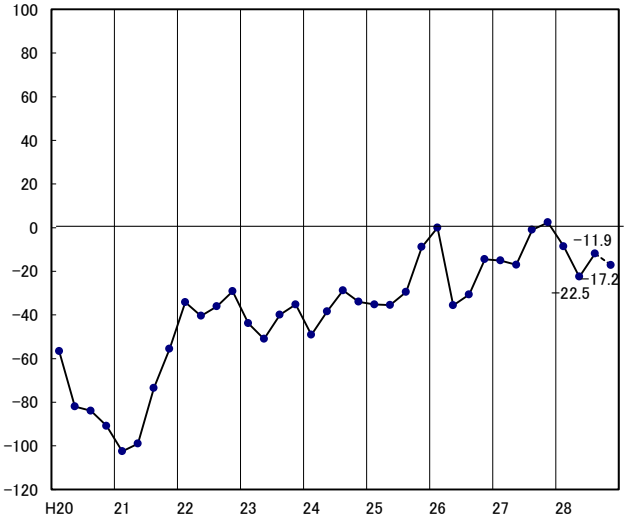




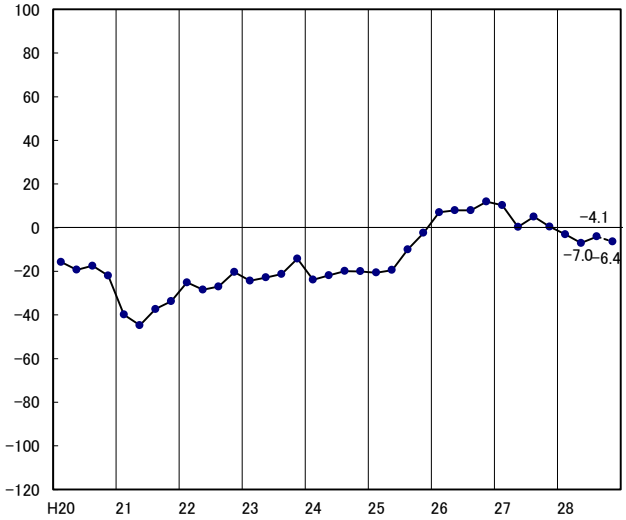


平成20年～平成28年第４四半期見通し

一般貨物・営業利益

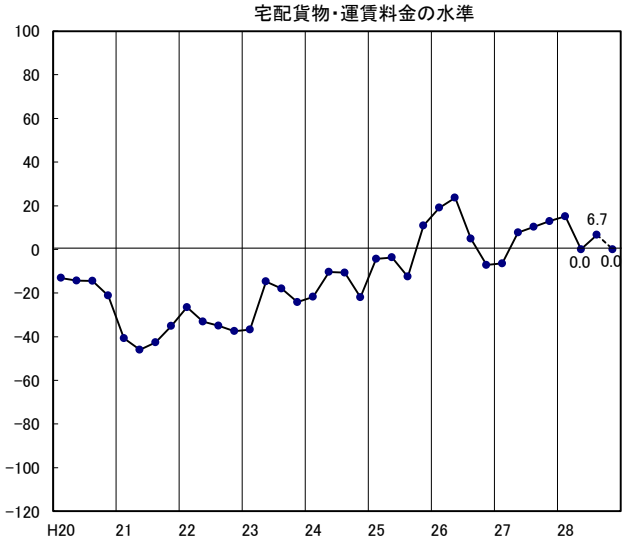


一般貨物・運賃料金の水準

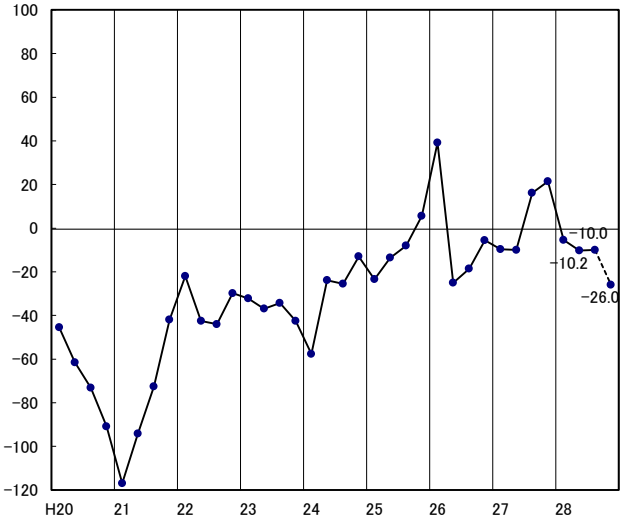


宅配貨物・営業利益

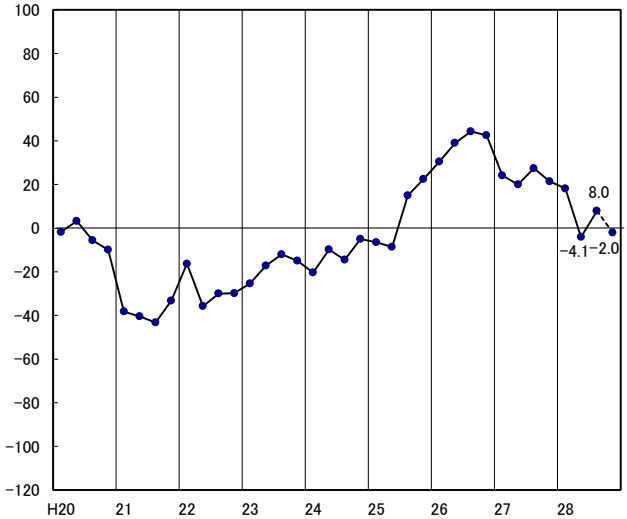
宅配貨物・運賃料金の水準



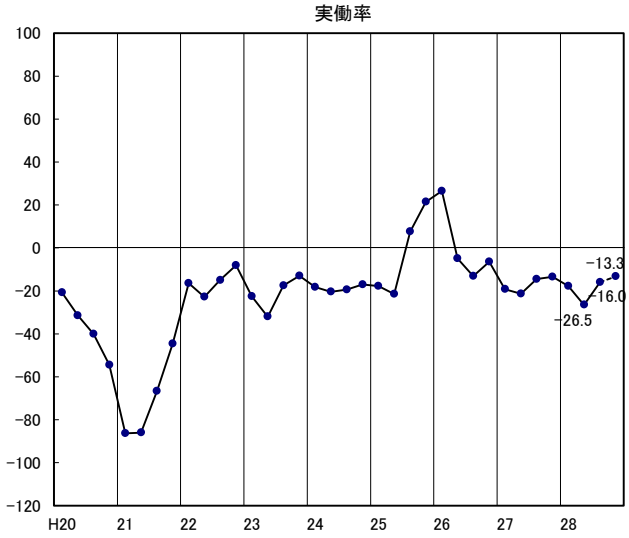
宅配以外の特積貨物・営業利益

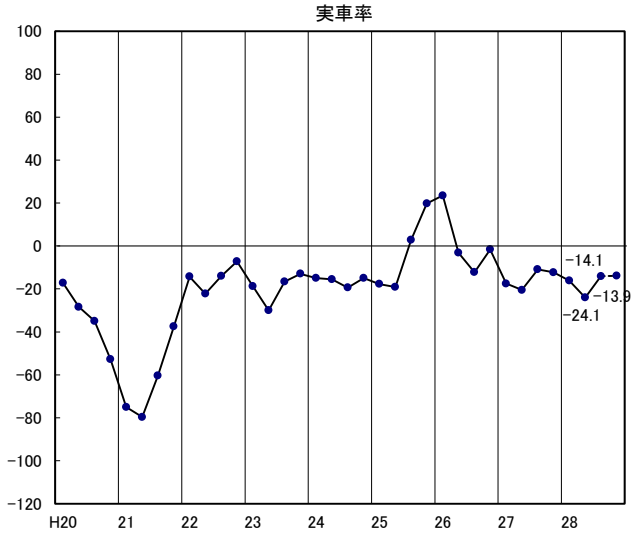


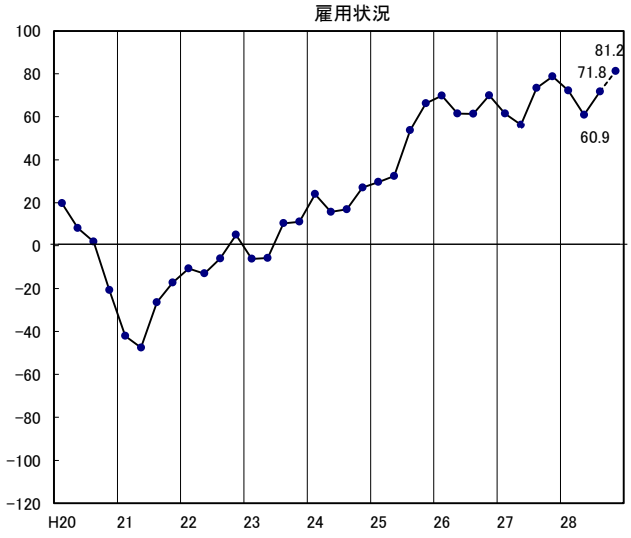
宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

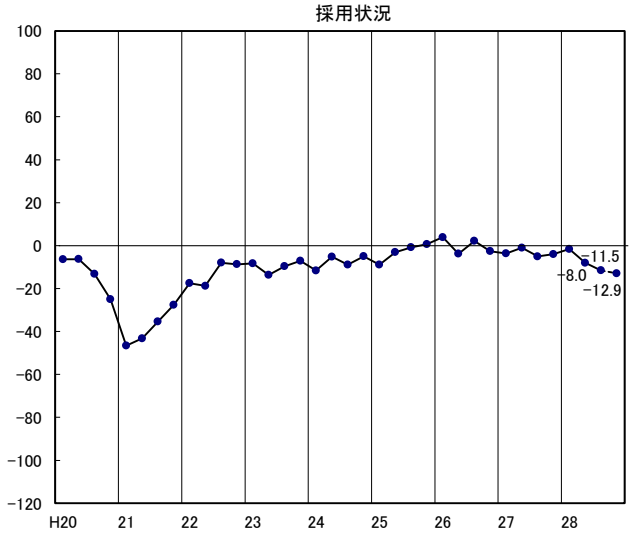


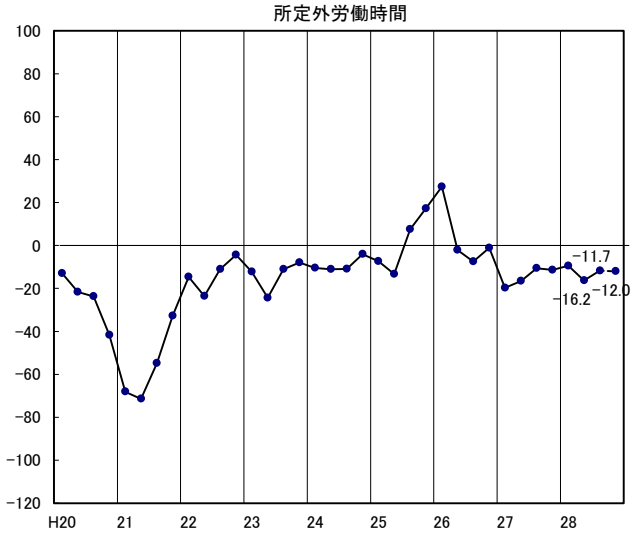
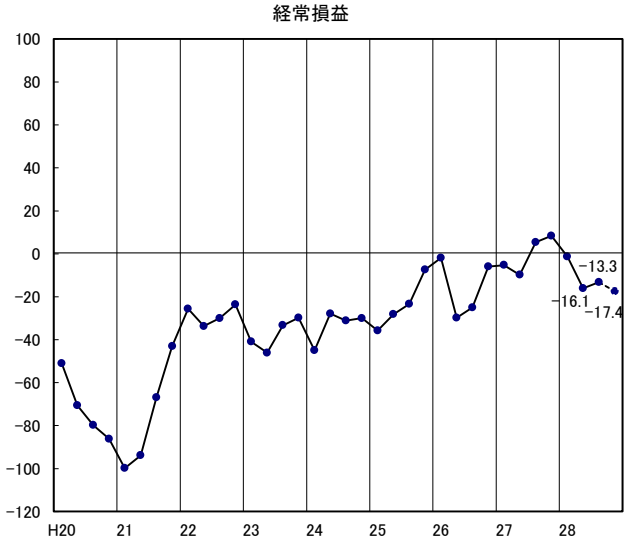
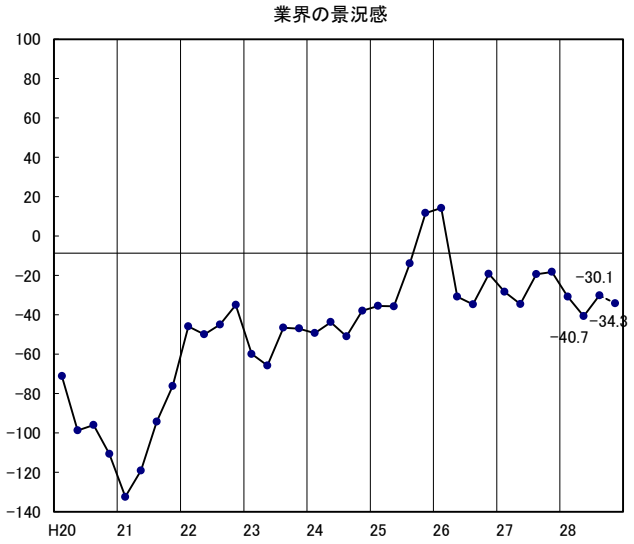
平成20年～平成28年第４四半期見通し











平成20年～平成28年第４四半期見通し